

部局を超えたまちづくりへの転換 ～最初の第1歩～

宮城県角田市

角田市について

○仙台市から南に約40kmの宮城県の南部に位置。

○米・大豆・梅などの栽培と、園芸や畜産が盛ん。

○JAXA角田宇宙センターがあり、台山公園には純国産ロケットH-II実物大模型がそびえる「明日の宇宙を拓くまち」。

角田市の現状 (令和3年2月末時点)

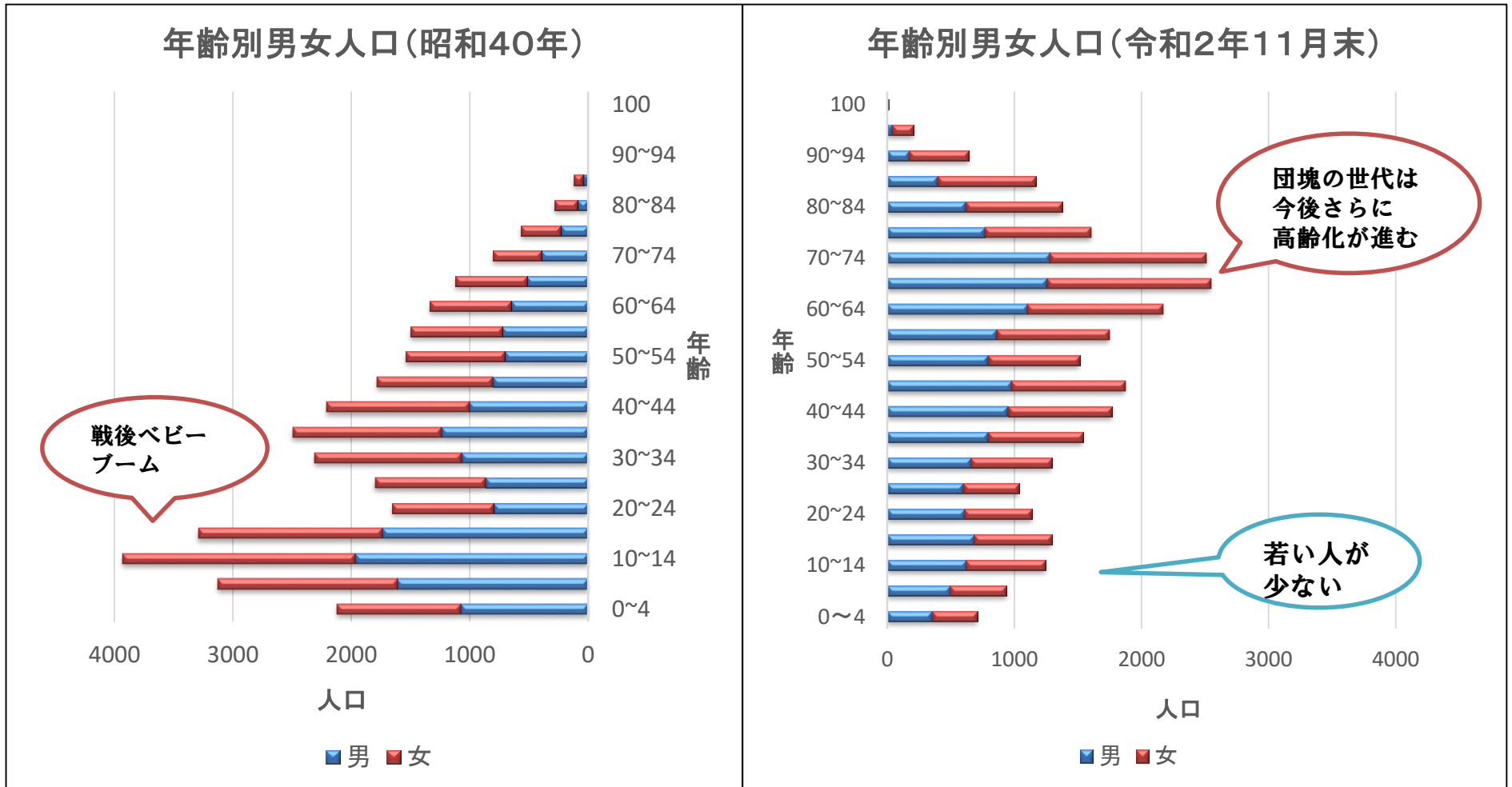
- ◆人口・・・ 28, 146人
- ◆世帯数・・・11,442世帯
- ◆65歳以上高齢者数・・・10, 099人(35.88%)
- ◆75歳以上高齢者数・・・4, 981人



地域包括支援センター
直営1か所

小中学校の統廃合が予定され、地域コミュニティが変化していく

年齢別男女別人口



小中学校の統廃合は、当然の流れ。高齢者を意識した地域づくりが必須！ 2

そんな時、地域からしっかりと提言があったのです

桜地区行政区長会からの提言

◇人口減少、少子高齢化を現実的なものとして受け止め、「持続可能な地域づくりの実現に向けた桜地区の地域づくりの在り方に関する提言」◇

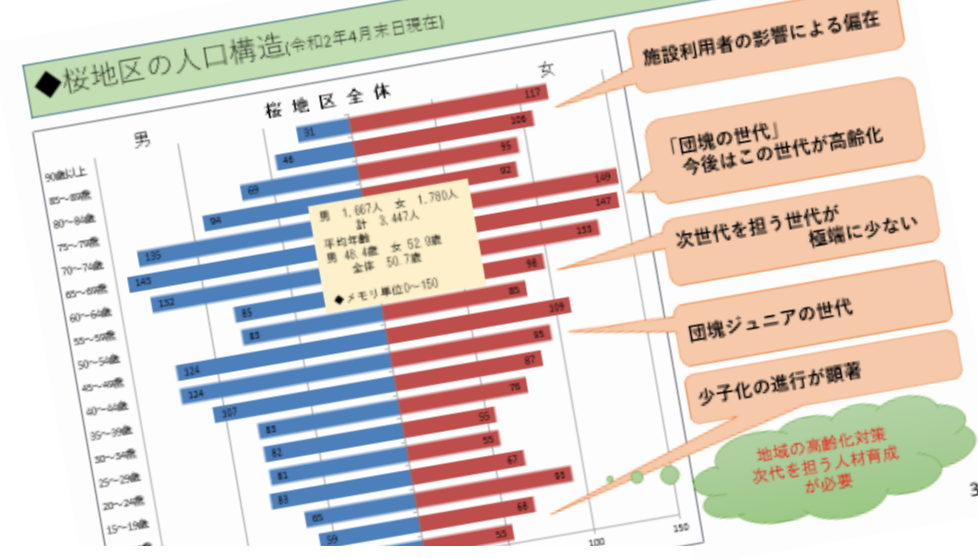
R2.6.9市長提言資料

持続可能な地域づくりの実現に向けた桜地区の地域づくりの在り方

- 人口減少、少子高齢化に伴う地域の担い手不足
- 災害に対する自主防災の強化

- ◆地域の「つながり」を再構築
- ◆地域の多様な「主体」を活用できる仕組みづくり
- ◆支えあいの仕組みの持続可能化

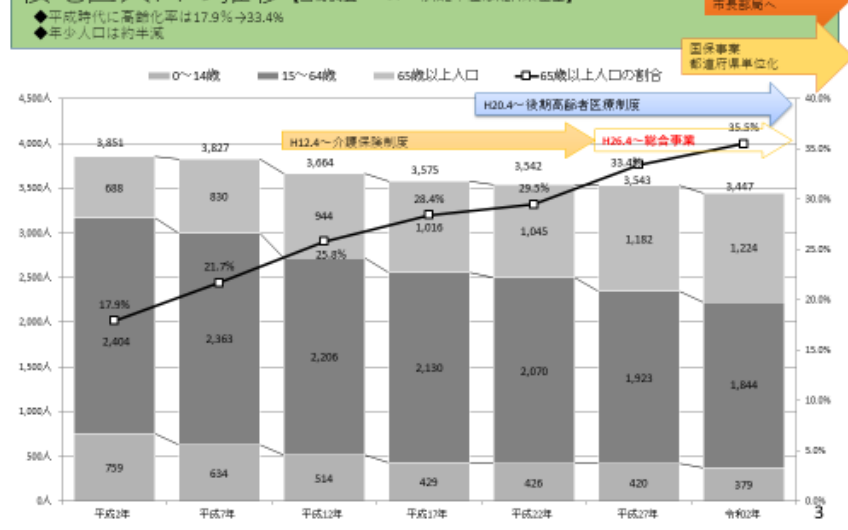
□□ **住民自治活動を支援する新しい「拠点」を創造** □□



4 具体的検討課題

- **地域を担う次世代の人材育成等**
 ⇒ 世代人数の少ない50歳代世代の地域の担い手の育成・発掘(担えるような環境整備)
 ⇒ 高齢者の社会参加の継続・促進による地域活動の維持(人生100年、生涯現役)
- **既存の住民活動組織の見直し**
 ⇒ 活動の維持が困難となっている団体等の統合又は地区振興協議会に包含
- **地域の「つながり」を再構築する縦の交流・横の交流**
 ⇒ 同世代の交流に加えて、世代間・多世代の交流を検討
- **桜児童センターの跡地活用**
 ⇒ 令和3年3月末閉館後の利活用として桜自治センターの附帯施設化(一定の改修後)
- **桜コミュニティセンターの利活用の見直し**
 ⇒ 桜体育振興会としての維持管理の限界(施設の老朽化)。虹の園の建替えと協働・連携。
- **基幹的住民自治活動組織の事務局機能の支援**
 ⇒ 事務局機能を受託し、その財源で地区振興協議会の活動資金化
- **自治センター機能の充実・強化**
 ⇒ 自治センター職員を「集落支援員」、「地域支援コーディネーター」とし財源確保
 ⇒ 確保した財源で地区振興協議会の活動資金の充実。

桜地区人口の推移 【国勢調査ベース・令和2年値はR2.4末住基】



生活支援体制整備事業

○介護保険計画どおり体制整備が図られていない。

○今年度から地域づくりの拠点と位置付けられた自治センターの強みを生かしたい。

→桜地区からの提言に、高齢担当部署としてしっかり対応したい

→念願の地区単位として、市長部局の組織に位置付けられた自治センターが、コーディネート機能をはたせるといいな



高齢担当部署だけでなく、全庁的な取り組みをしたいと思えるようなサポートをお願いしたい！

多事業共通

○何年も繰り返されている事業が多く、ますます深刻化する課題に対応できるのかな。一部の福祉事業者が撤退しているが、行政としての対応は、これで十分なのかな。

→全事業について、しっかりPDCA実施できるといいな

○予算も時間もなく、検討する時間をとることもままならない状況

→交付金をうまく活用し予算を捻出できることを共有できるといいな。多忙でも、行政職としての醍醐味・達成感をみんな得られるといいな



特に一定の職位の職員は、俯瞰の視点で対策を考えられるようなきっかけとなるサポートをお願いしたい！

初回：現状の把握と課題認識の共有 ～ 10/22厚労省職員支援場面 ～

関係者間の視点合わせ、課題の抽出、取組むべき方向性のすり合わせを行いました。

第1部 講義



第2部 意見交換

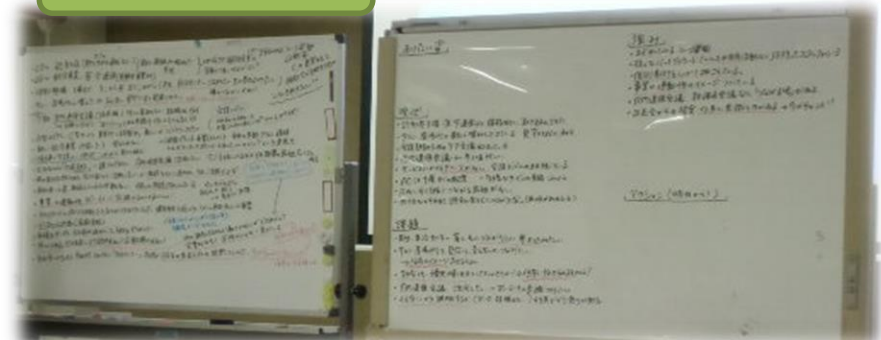


市の現状把握と課題認識の共有

1回目 成果物

ホワイトボードは必須
現状や課題が浮き彫りに

↑講義は2本立て
・まちづくり
・活用できる制度
や仕組みの一例



高齢者福祉担当課以外にも市長・まちづくり担当課も参加

帳票を基に振り返り

思いの整理

- 市内自治センターとの連携によるまちづくりを進めたい
- サロンや通いの場等の居場所を見守り、支え合いに繋げたい
- 住民主体の活動に新しい人が入りづらい
- 各事業が「出てこられる方」への支援となり、「出てこられなかった方」へ届いていない
- 関係各課と共通の認識（庁内連携会議の活用）を持ちたい
- 各事業の見直し（スリム化、優先順位、住民に任せられるものはあるのか）がしたい
- 住民が納得できるような説明（定性・定量による現状分析や指標、将来推計、分かりやすい見せ方 等）指標を作りたい
- 交付金や各種制度の活用をうまく図りたい

今後の方向性の共有

- 1.角田市における「高齢者の役割」「生きがい」とは何かを明確化
- 2.現状の把握と課題の要因分析
 - 角田市の課題を客観的に見える化。
 - 業務の優先順位、今必要なものか、不必要なものか、PDCAにそった形での評価と整理。
 - 担当者レベルの共有化（ボトムアップ）。個別事業の評価。全体の進捗管理。
 - 市の目指す姿に対し、市をあげて同じ方向性を向けるような対策。
 - 市の目指す姿を住民へ、住民目線でインパクトのある周知。
- 3.個人ができること、組織で取り組むこと、その優先順位を決め、角田市の強みを活かした課題解決に向けた方策を検討する。
- 4.上記1～3に見える化して関係者間の規範的統合を図る

宮城県角田市

- 課題を掘り下げて整理するために、介護予防と地域づくりについて提言のあった桜地区に絞り込み、データ等の点と点をつなぎ合わせ「見える化」し、次年度の地域づくりを考える材料にしたい
- 桜地区では、地区振興協議会と自治センターが主体となり、アンケートを実施する計画もある
- 高齢部門担当課として、分かりやすい情報を提供し、地域住民と一緒に考えられるとよい
- 当初は打合せを重ね担当課全体で共有したかったが、通常業務に加え、計画策定や予算編成に追われ、対応できる状況ではなく実施できなかった

2回目 市町村における意識や行動の変化の確認等 ～12/16厚労省職員支援場面～

ありたい姿に近づくためのアイデアを関わる職員皆がチームとなって出し合いました。

2グループ（黄・青）に分かれ
ブレインストーミング

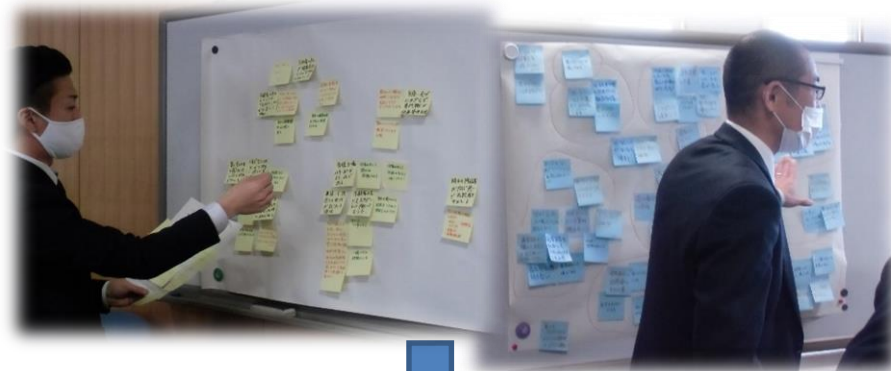
ありたい姿①健康寿命をのばす



ありたい姿②
役割・生きがいがある

KJ法で整理

角田市への常日頃の思いを目に見える形で共有



「ありたい姿に近づけるためのアイデア集」が完成

一堂に会しての話合いだからこそ多様な意見が出せた
こういう時間を作れてよかった
(参加者の声)



ひとつにまとまったのが嬉しい
住民との共通認識からスタートし、どうしていくか検討したい
(参加者の声)



2グループ（黄・青）をワンチームに

思いをひとつに（合意形成・規範的統合へ）

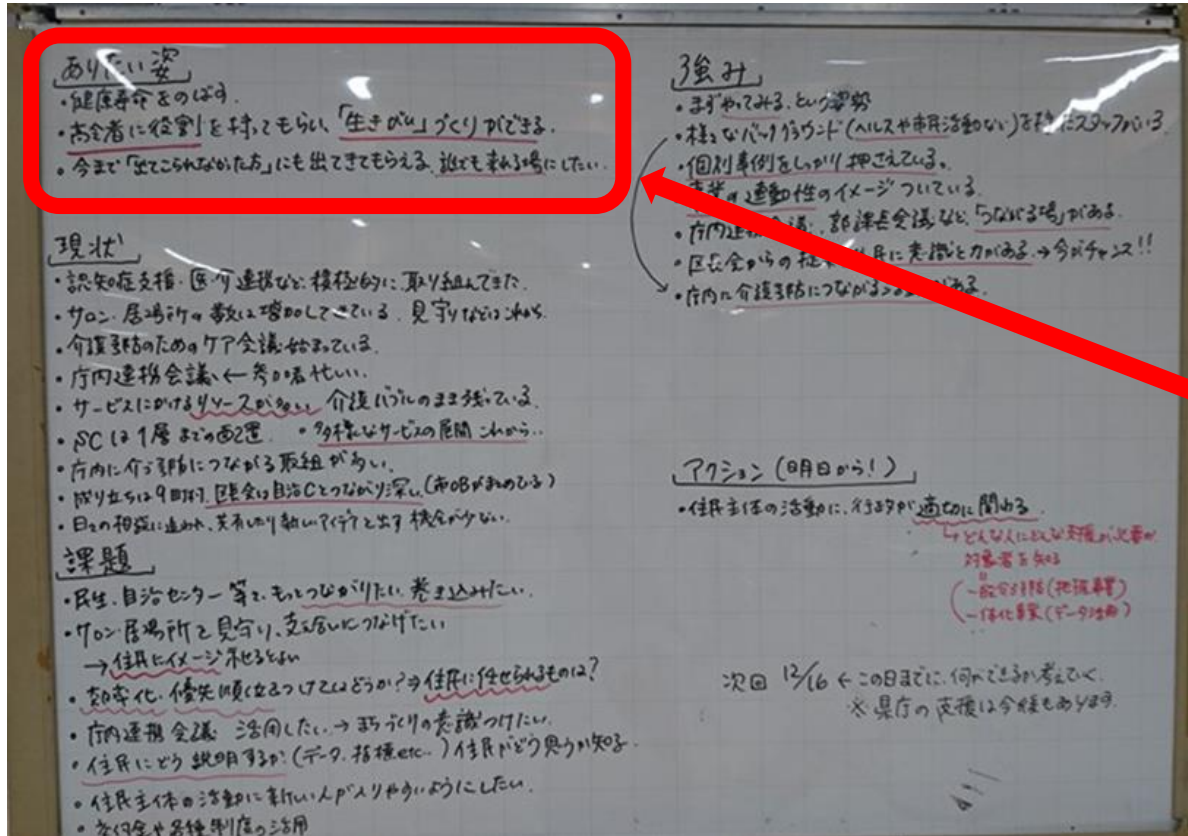


2回目 ~ 12/16厚労省職員支援場面 ~

「忙しい日常業務の中で皆で打合せもできず進まない…」その悩みどうしよう?!

グループディスカッションで 解決できるかも!

テーマは1回目の支援時の意見交換板書(生の声)写真をそのまま活用



グループディスカッションの進め方

- 目的 : みんなで考える。チームで取り組む。
関係者間の合意形成, 規範的統合。
- 方法 : ブレインストーミング及びKJ法を用いて
課題解決の道筋を考える。
※ グランドルール:
『市民のために』
『プラス思考・積極思考 (ポジティブ・シンキング)』
『モノ・カネ・ヒト 度外視』
『立場関係ない』
- グループ : 2グループ (1グループにつき市職員4 + 支援者2)
- テーマ : **別紙『ありたい姿』**に近づくためのアイデアを
関わる職員全員で出し合い話し合う
- タイムスケジュール :
 - グループディスカッションの進め方 (10:20~10:25) 5分
 - グループ毎の個人ワーク (10:25~10:35) 10分
 - グループディスカッション (10:35~11:15) 40分
 - グループ発表 (11:15~11:35) 20分
 - まとめ (11:35~11:40) 5分

2回目 ～ 12/16厚労相職員支援場面 ～

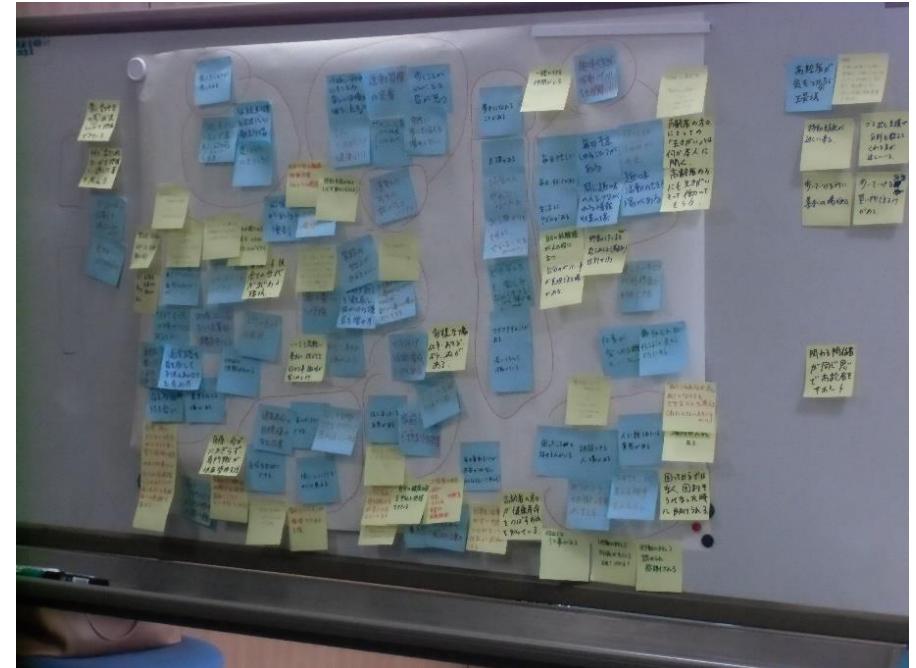
「忙しい日常業務の中で皆で打合せもできず進まない…」その悩みをどうしよう?!

出された意見を 1つに整理した

ステップ1 : 青グループはそのまま発表



ステップ2 : 黄色グループは 青グループ模造紙の
同じ意見に貼り合わせながら発表



完成! 一体化!!



担当者の苦しみ

- ・「脳いきいき健康学習教室」を自主化しようと引き継いだが、参加者から抵抗され、怒られた・・・
- ・会議でも、「元気高齢者を増やす対策が手薄だ」と意見された。
- ・住民主体の「いきいき100歳体操」実施団体を増やす計画だと引き継いだが、一向に増えない・・・
- ・予定通り活動団体が増えたとして、体力測定の手作業でのデータ化の手間を考えると、対応できるか不安になる・・・
- ・同じような支援事業を3つの係で実施している。住民にとっては、どれも同じでは？

自主化されない住民側の理由 あれこれ

- ・行政が運営するから参加しているから「自主化」という単語は、突き放される感じがある
- ・運営する役割は負担が大きくストレス
- ・「介護」「100歳」ネーミングに抵抗がある
- ・弱ってから、すでに活動している団体に新規で参加するのは抵抗がある
- ・介護予防など、こっぴどかしい
- ・大人数の集団は苦手
- ・人の前にたつなんて、無理
- ・場所や移動手段が大変

一方で、住民は。。。

- ・気の合う人や共通の趣味を持つ人と、すでに活動している人は多い。
- ・健康づくり団体や文化活動団体も多くいる
- ・健康ポイントは活動の励みになると好評
- ・職員への意見は、自分や角田市をよくしたいと思うからこそのこと

支援後を受けた後の動き 1 : 介護予防事業のその後

住民の声を大切にしつつ10年後をイメージし、自分も参加したくなる内容を考えた

キーワード：気軽に！ 気楽に！ 柔軟に！

活動回数：週1回 ← なんととっても曜日感覚が保たれる。でも月1回でもいいことにしよう！

人数：4人以上 ← 密を避ける、軽自動車・タクシー移動可能、ゴルフ・麻雀の人数
3人は欠席者がいると2人となりさみしい


活動内容：同じメニューを押しつけるのはやめよう。でも、健康に関する活動で線をひこう。
その日の気分で選択できるような内容で。これからは動画を活用する時代！

活動場所：自宅、集会所、自治センター、屋外、畑、どこでもいいことを伝えよう
→ 自治センターに確認しよう！

活動継続するためには：健康ポイント、一人一役、筋肉量等の変化などを自分でみられる、
誰かにほめてもらえる、役に立つ情報がある などなど・・・
→ 全部実行しちゃおう！ みんな専門職ともつながれるように！

大勢が活動しても対応可能なものに：体成分測定は、すでに電子化されている「スマートかくだチャレンジ事業」を活用しよう！

事業の効率化：3つの係で実施しているものを統合！！



住民や関係者に説明して回ったところ、
大歓迎されました。モチベーションアップ！

期待する効果 介護予防での地域づくり！

定期的に集まる → 体調や生活に変化があっても、気づきやすい・声をかけやすい関係づくり
目的を共有し一人でも多くのひとがやってみたくなるように！ 目標800人！

モデル地区となる桜自治センターへ足を運んでみた！

なんと、すでに実践していた！

目的をしっかりおさえ、地域づくりのための視点は整理されていた！

さらに、すでに地域づくりの拠点として、できることを考えていた！

地域包括支援センターがリードするどころか、教わることで多くて、恐縮です・・・

柔軟に対応するためには、痛みを伴うことも・・・

これまでの事業手段を変えることに対して抵抗されることは、あるあるです。市の将来を左右するといっても過言ではない生活支援体制整備事業は、まだ職員全員が同じ方向を見られていません・・・

組織判断をしっかりとしなければ！！

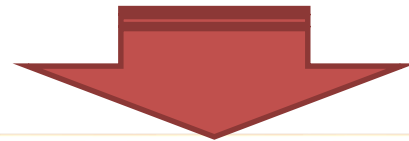
そんな包括内部をよそに、自治センターは考えていました。

桜地区における健康のまちづくり

- 人口減少、少子高齢化
- 高齢世帯の増加

◇◇デモ、でも……「そんなの関係ねえ」

地域に出て・運動して……コロナに負けない「新しい日常」のために



住み慣れた地域で、健康で、
生涯現役で暮らし続けるために

変化を受け入れ、前向き思考で

- 日常生活維持に不安を感じる
- 地域の役職の担い手がいない
- 健康に自信がない
- 災害があったら
etc.....

**地域のつながり
支え合い
を
見直そう**



地域や人との「つながり」、「支え合い」 を意識し、健康な地域づくり

- 地区民運動会
- 地区民球技大会
- 地区振興協議会活動
- 防犯、交通安全等活動
- 契約、納税組合等活動
- グランドゴルフ、いきいきクラブ等活動
- PTA、子ども会等活動
- 神社、寺のお世話役
- その他……………

- 「つながり」
- 「支え合い」
- 日常生活の相互支援



- 信頼できる地域
=健康な地域づくり
- 災害につよい地域づくり

自治センターの生活支援コーディネーター機能とは

- 地域の課題とその課題解決を、地域が自分たちの問題として捉え、考え、決めていくプロセスを支援すること。
- 地域で解決できること、地域で解決できないこと、を行政(市役所)に伝え、課題解決のための方法(戦略)を創ること。



難しく考える必要はない。

- 既に地域ネットワークの拠点として日常業務を通じて、地域を一番よく知っているのだから。
- 行政区長、民生委員、防犯協会、交通安全協会、納税組合、消防団……

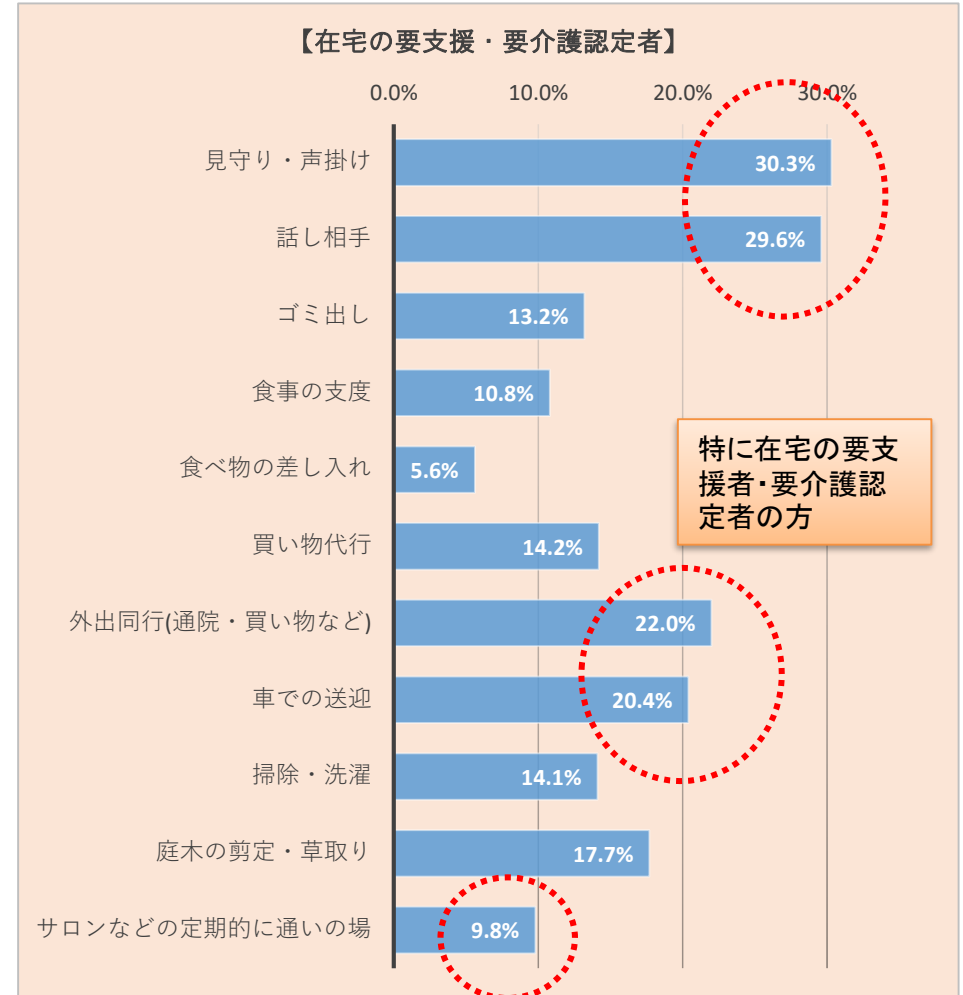
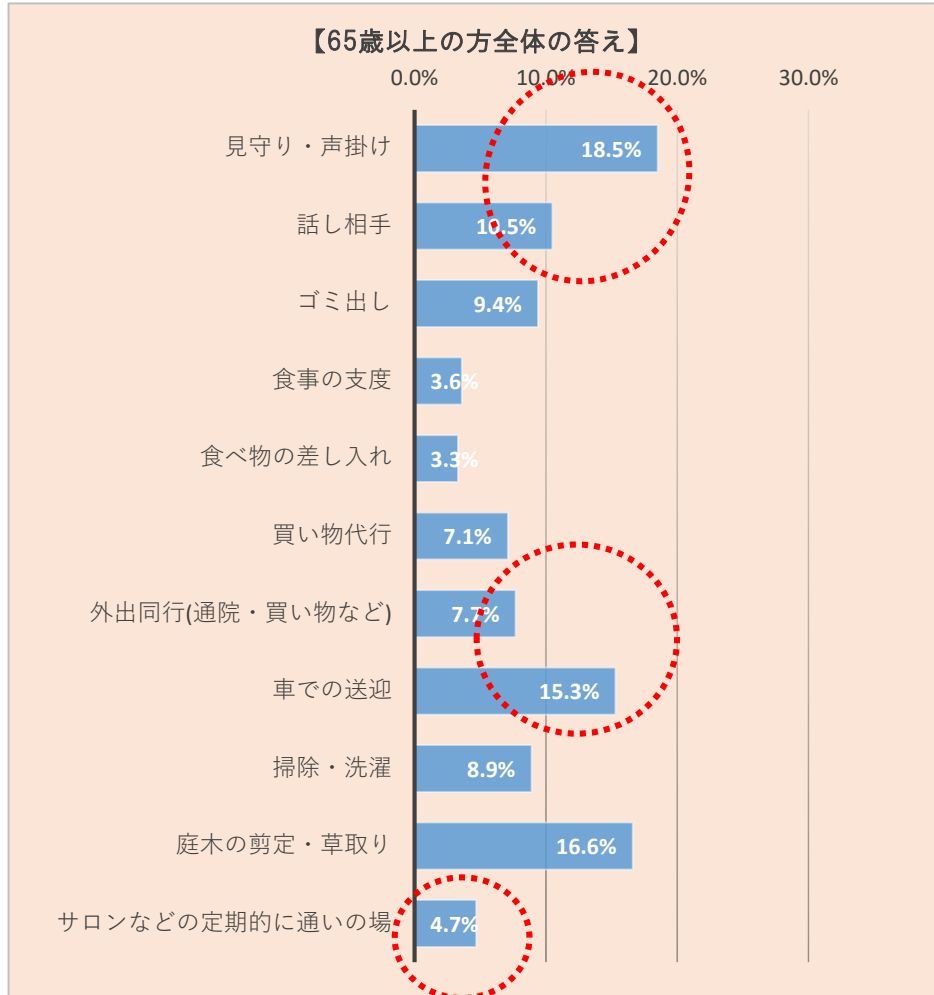
◇新しいことを考えなくても、地域づくりを考えるヒントは既にある
……例えば……



**令和2年9月「角田市高齢者実態調査結果報告書」から見える
地域の課題と解決のヒント**

あなたが住む地域にあったら良いと思う手助けはありますか？

- ◇見守り、声掛け・話し相手が求められている
- ◇外出同行・車での送迎が求められている
- ◇サロンは意外に少ない

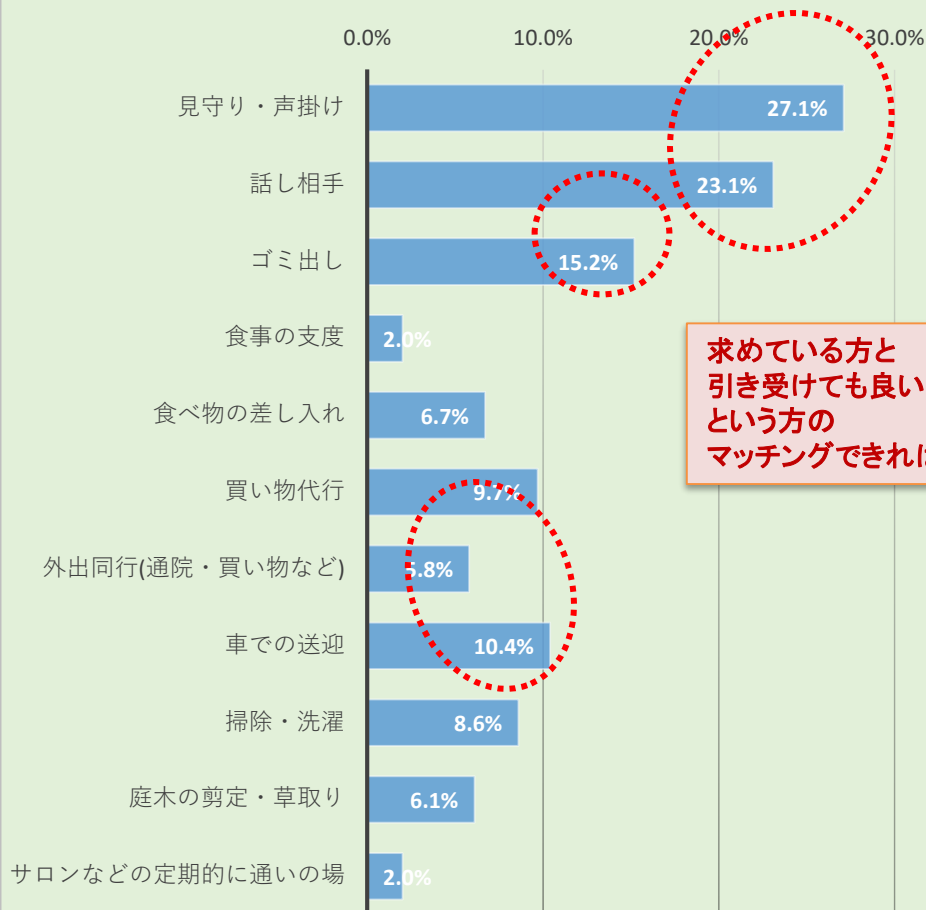


※ケアマネージャーに対する同様の質問では、・ゴミ出し 71.9% ・外出同行 68.4% ・見守り、声掛け 61.4%となっている

あなたが住む地域に困っている人がいたら、引き受けて良いと思う生活の手助けはありますか？

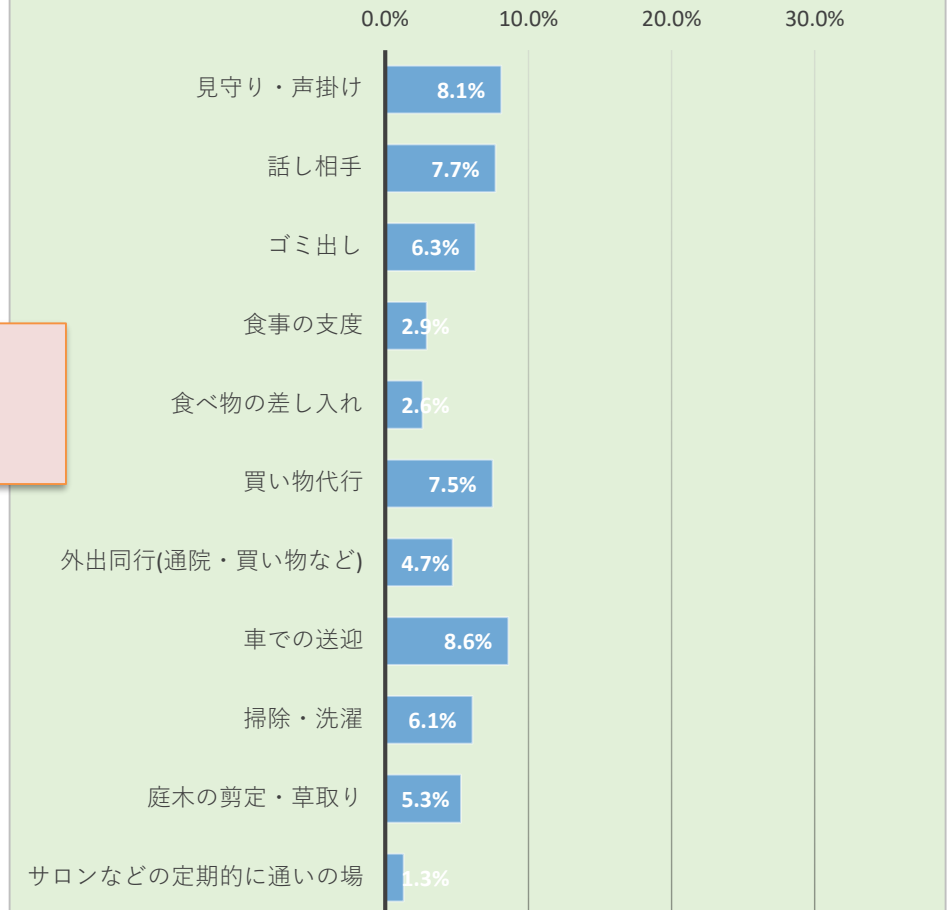
- ◇見守り、声掛け・話し相手なら、無償で引き受けても良いという方が大勢いらっしゃる
- ◇ゴミ出しなら、無償で引き受けても良いという方が15.2%もいらっしゃる
- ◇車での送迎なら、無償で引き受けても良いという方が10.4%もいらっしゃる

「無償」で引き受けても良い



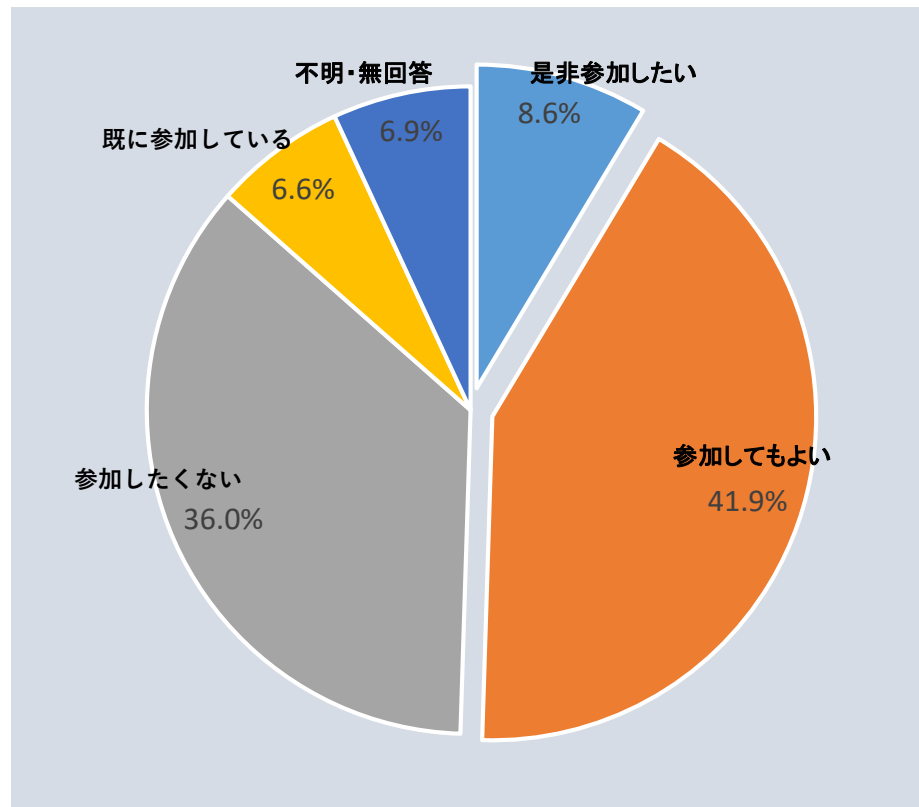
求めている方と
引き受けても良い
という方の
マッチングできれば・・・

「有償」なら引き受けても良い

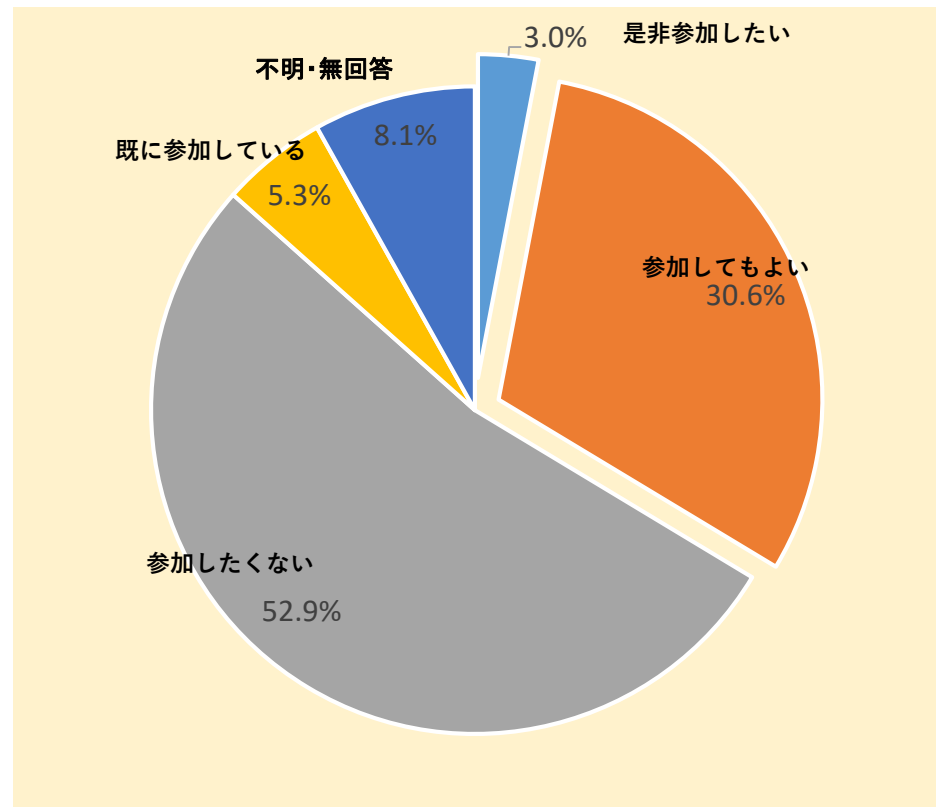


地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、
あなたはその活動に参加してみたいと思いますか？

参加者として参加したい



企画・運営(お世話役)として参加したい



4割強の方が「参加してもよい」と回答され、しかも、3割の方は企画・運営(お世話役)として参加してもよいと回答している。

桜地区振興協議会組織の見直し

21

- ・ 下図は、令和3年3月末現在
- ・ 令和3年度に向けて、充て職等の委員見直し

地区振興協議会組織を見直し、簡素でわかりやすいものにした。

桜地区振興協議会の組織イメージ

桜地区

桜地区振興協議会

総会で選任
(3年任期)

【組織】	
会長	1名
副会長	1名
会計	1名
理事	若干名
監事	2名

顧問
代議員 各行政区2名

【桜地区の将来像】

「みんなでつくる

おうか
桜花咲き誇るまち 桜」

総会

委員会+代議員

役員会

委員会

行政区長	桜小学校PTA会長
民生委員	地区子ども会育成会長
老人クラブ連合会長	地区中央青年会長
地域婦人会長	桜児童センター館長
JA地区理事	消防団分団長
地区農家運営委員長	地区防犯協会長
JA女性部支部長	地区体育振興会長
JA青年部支部長	地区環境衛生組合長代表
地区農業委員	交通安全協会支部長
土地改良区地区理事	桜郵便局長
桜小学校長	桜駐在所長
北角田中学校長	地域安全・安心ネットワーク代表

専門部会

【各部会共通】 部会長1名 副部会長2名

地域安全部会

地域安全・安心
ネットワーク

教育福祉部会

生活環境部会

農業振興部会

桜地区自主防災組織連絡協議会

駐在所
郵便局

学校・PTA・子
ども会育成会

消防団
地域婦人会
青年会

各地区
老人クラブ

各地区行政区会
(自治会)
自主防災組織

地区民生委員・
児童委員及び
主任児童委員

農業関係
団体等

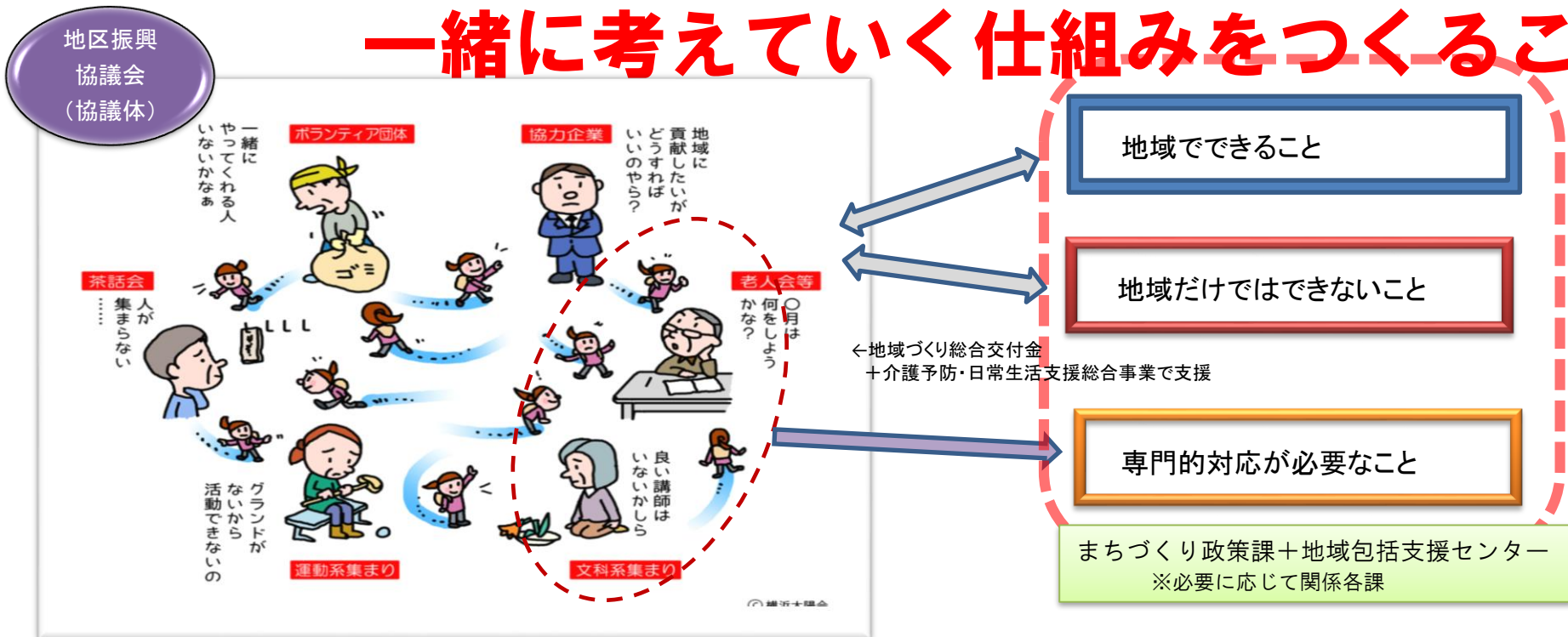
環境衛生組合
体育振興会

防犯協会
交通安全協会
安心安全ネットワーク

「地域の力」を“点”から“線”へ、線から“面”に

- 例えば、こうした「高齢者実態調査」から見える課題と、地域の力をマッチングできる可能性が地域に根差した自治センターにあるのかも。
- そうすることで、暮らし続けることのできる地域が維持できるかも。
◇◇でも、地域でできることには当然限界もある。インセンティブも必要。◇◇

◆大事なことは地域でできないことを 一緒に考えていく仕組みをつくること



変わったこと・気づいたこと

- ・まちづくり担当課は、生活支援体制整備について議論がすすんでいる。
- ・特に行政区長会から提言のあった地区の自治センターは、住民の声や客観的視点をもとにしっかり議論され整理されている。
- ・一方で、地域包括支援センターは多種多様な会議を開催しているが、どちらかというと報告がメインで、実際に協議している会議は少ない。議論の仕方はいろいろあるが、議論できるデータや全体像などの材料を持ち寄ることは重要。
- ・相変わらず時間を捻出できず十分な打合せを持つことは難しいが、誰かが疑問に思ったタイミングで深掘りすることは効果大きい。
- ・痛みを伴うが、「なんのために?」「住民にとってはどう?」を繰り返し問いかけ、すり合わせる事が重要。
- ・一口に「地域」というけど、福祉・健康分野で関わっていたのは、一部の限られた人達だった!

これからやってみたいこと

- 【行政職としての意識】
- ・様々な意見がある中で、組織としてしっかり判断し、伝えていく!
 - ・そのために、根拠をしっかりと！
データ、みとおし、財源、人材等々
 - ・アリの目と全体を俯瞰の目で見える意識をしっかりとつ!
 - ・担当者レベルのボトムアップの方法を意識したい。
- 【地域課題に対応した展開ができるように】
- ・地区組織を含め、地域を知りたい。
 - ・地域での声や生活の状況を聴くためにも、全自治センターには定期的に巡回したい。
 - ・把握しているデータを整理して地区の方にお知らせし、一緒に考える材料としたい。
 - ・地域で様々な場面で活動している方々に対し、声を出して応援したい。誰の応援が効果的なのか考えたい。